

登録コード	AIY07100		開講年度	2026			
授業科目	物理学概論					担当教員	安達 弘通
英文授業名	Intorduction to Physics						
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	木曜・1時限		対象学生
講義室	共通教育 1 2 講義室			授業形態	講義	遠隔授業科目	
						備考	
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】	
	2 0 2 6 Aカリ, 2 0 2 5 Aカリ						
	【2025年度以降カリキュラム対象】1. 【教養・基礎学力】 豊かな教養と農学分野における基礎学力が身についている。				⇔	簡単な数学（ベクトル、微積分）とともに、物理学の概要を学び、理科系の学問の基礎となる論理的な思考、記述に親しむ。	
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	物理学を概観し、自然現象を少数の原理や法則に基づいて理解する立場を学ぶ。また、全体を通して、エネルギーについての理解を深める。講義は板書にておこなう。						
(5)授業計画	第 1回：物理量と単位 第 2回：力 第 3回：剛体のつり合いと力のモーメント 第 4回：速度と加速度 第 5回：運動の法則 第 6回：重力下の運動 第 7回：力積と運動量、仕事と運動エネルギー 第 8回：エネルギー保存 第 9回：熱学の法則 第10回：電荷と電場 第11回：電位、導体・不導体 第12回：電源と仕事 第13回：磁場 第14回：電磁誘導と電磁波 第15回：原子物理、授業アンケート 第16回：期末試験						
(6)自主学習の指針	各自で教科書を読み、例題、問、演習問題に取り組んで応用力を養うこと。〔(6)も参照のこと〕						
(7)成績評価の基準	(8)に記載の方法による評点が、60点以上70点未満であれば「その水準にある」、70点以上80点未満であれば「やや上にある」、80点以上90点未満であれば「かなり上にある」、90点以上であれば「卓越している」とする。なお、期末試験では、授業で扱った内容と同レベルの問題を出題する。						
(8)事前事後学習の内容	予め教科書の該当箇所を通読し、概要をつかみ、疑問点をもって授業に臨むこと。授業後はノートを見返し、授業を振り返るとともに、もう一度教科書を読み、理解を深めること。間違えた（分からなかった）演習問題は解き直しをすること。〔(4)も参照のこと〕						
(9)テストやレポートの予定	原則的に毎回出席票を兼ねた問題演習を行う。最終週に期末試験を実施する。						
(10)成績評価の方法	授業内容の理解を深めるための問題演習（平常点）と期末試験をおよそ6対4の割合として、計100点で評価する。						
(11)質問、相談への対応および連絡先	授業中、授業後（メールも可）						
(12)履修上の注意	1. 授業時はノートを取り、内容を理解することに集中すること。 2. 出席票のやり取りにはeALPSを利用する予定。						
【教科書】	原康夫著，自然科学の基礎としての物理学，ISBN978-4-7806-0200-5，学術図書出版社，2014年，\1,900+税						
【参考書】	指定しない						